

小学校家庭科における衣生活分野の取り組みについての一考察 — 衣服の手入れ —

山口 明美

要 旨

衣服の手入れに関する意識調査を実施したところ“あろう”ということについての現状が浮き彫りになった。本来、洗淨することを目的とした洗濯であるはずのものが、洗濯機の機種や洗剤の選択において汚れ落ちが悪いことが気になるものの、より安価で労力の省力化に優れたものが選択の条件となっている。また、洗濯を子どもと一緒に取り組む時間的ゆとりがないため、小学校教育の中で基本的な洗濯方法の指導が求められていることがわかった。一方、学校教育では衣服の手入れについての授業が積極的に実施されていない現状であることもわかった。そこで、本研究では①体験学習を通して、子ども自らが学び得る授業を展開する。②家庭に積極的な協力依頼を行う。③学校と家庭がともに子どもを育てるというコンセンサスを得る。この三点の課題の実践を提言した。

キーワード：衣服の手入れ，洗濯，意識調査，学習指導要領，
学校と家庭の連携

I. はじめに

家庭科の授業時に20年程前までよく耳にすることばがあった。例えば、「私のお母さんも同じような事をやっていたよ」「私のお母さんはこんなにしていた」「お母さんがやっていたのは、こんな理由があるんだ」など。つまり、授業の中で各家庭でのやり方やあり方と重ね合わせて考える事によって、家庭で行われている事柄を再確認し、家庭にフィードバックしながら理解を深め、容易に日常の家庭生活に関心を持つことができ、生活の現実を認識し見直すことができていたのである。そして、家庭科の役割である生活者として自立する能力や家庭を築き、経営していく能力を育て、さらに変化する社会に主体的に対応して、新

しい生活文化の創造に取り組む意欲と態度を育てるという目標に到達していたのである。しかし、近年このようなことばを耳にすることがほとんどなくなった。なくなったばかりか「先生のような人を一家に一台欲しいという感じ…」などの声を聞くのも稀でなくなった。このような生徒たちのことばからも現代の家庭の姿、その様変わりを伺い知ることができる。まさに、透明のガラス越しから家の様子が分かるように、子どもたち一人ひとりの家庭のあり方が見えてくる。これが家庭科の特徴の一つともいえる。これまで家庭で当然のように体験し、考え方や生き方を学ぶという学び舎の家庭の姿は果たして消えていっているのだろうか。もし、それが現実であるならばその補いを学校教育の現場で行うべきなのだろうか。

このような現代の家庭生活の現状を踏まえ、本研究では衣生活の分野の衣服の手入れに着目し、①日常の家庭生活に関心を持ち、②生活の場で実践できる力を身につけ、最も身近に関わる家庭生活を創造し工夫するために、学校教育と家庭のあり方の問題を明確にし、取り組みを検討することを目的とした。

II. 研究方法

1. 意識調査の実施

衣服の手入れに関する母親の意識調査をアンケート形式で行った。衣服の手入れに対する母親の意識と子どもとの関わりを検討するため、保育園、幼稚園に通園する子どものいる母親を対象とした。地域差や仕事の有無による差や傾向を見るため、神奈川・宮崎は保育園、長崎は幼稚園に協力依頼した。アンケート内容は次のとおりである。

洗濯に関するアンケート内容

洗濯機について

(1) 洗濯機はどの機種をお使いですか。該当する番号をご記入ください。

- ①二槽式洗濯機 ②全自動洗濯機 7 kg未満
- ③全自動洗濯機 7 kg以上
- ④全自動洗濯乾燥機

現在、使用している洗濯機の機種を選んだ理由をご記入ください。

(2) 洗濯槽はどの種類をお使いですか。該当する番号をご記入ください。

- ①ドラム式 ②渦巻き式 ③攪拌式

(3) 乾燥機の利用について、該当する番号をご記入ください。

- ①よく利用する ②時々利用する
- ③ほとんど利用しない

①②と答えた方、どのような時利用されていますか。利用状況をご記入ください。

(4) 洗濯機による洗浄で落ちにくい部位はどこですか。(複数回答可)

上着の場合

- ①えりぐり ②そで口 ③背中部分
- ④腹部部分 ⑤胸の部分 ⑥脇の下

ズボンの場合

- ①腰部部分 ②腹部部分 ③すそ
- ④おしり部分 ⑤ひざ部分
- ⑥ポケット周辺

靴下の場合

- ①つま先部分 ②かかと部分
- ③足の甲部分 ④土ふまず周辺

洗たくについて

(1) 現在、使用されている洗剤名と洗剤を選んだ理由をご記入ください。

使用する洗剤量について選んでください。

- ①標準使用量に従っている。 ②標準使用量より多め ③標準使用量より少なめ

(2) 頑固な汚れの洗濯方法として普段やっている方法をお選びください。

- ①つけ置き洗いをした後、洗濯機で洗濯する。
- ②部分洗い用洗剤を付着させて、洗濯機で洗濯する。
- ③他の洗濯物と分けて、洗濯機で洗濯する。
- ④汚れのひどいものは手洗いをしている。
- ⑤そのまま一緒に洗濯機で洗濯する。

(3) 子どもの衣服に付く汚れの種類はどのようなものですか。(複数回答可)

- ①食べこぼし (ジュース類などの汁物)
- ②食べこぼし (カレーなどの固形物)
- ③泥汚れ ④クレヨンなどの油性汚れ
- ⑤すみ ⑥鉄さび
- ⑦皮脂汚れ (あせ・あかなど)
- ⑧その他 ()

(4) 汚れ落ちが悪いと感じる時はどのような時

- (どのような場合) ですか。
- (5) 洗濯を行う時間は何時頃ですか。
- ①午前10時以前 ②10時以降12時前
③15時前後 ④18時前後 ⑤20時前後
⑥就寝前
- (6) 洗濯を干す場所はどこが一番多いですか。
- ①室内 ②屋外 (ベランダなどの屋根あり)
③屋外 (天日干し)
- (7) 子どもの衣服の洗濯で困っていることがあればご記入ください。
- (8) 子どもの衣服の洗濯で工夫していることがあればご記入ください。
- (9) 家庭において子どもさんにさせている洗濯内容を選んでください (複数回答可)
- ①洗濯機をかける ②洗濯物を干す
③洗濯物を取り入れる ④アイロンがけ
⑤洗濯物の整理 (たたんでしまう)
⑥子どもにはさせたことがない
- (10) 小学校の家庭科教育の中で、洗濯について指導してほしいことがありましたらご自由にお書き下さい。
- その他
- 仕事をしておられますか (はい・いいえ)
子どもさんは何人ですか

2. 学習指導要領の変遷に伴う衣服の手入れに関する指導内容の変化を見る
- 学習指導要領が改訂された1955年より2003年の一部改正までの衣服の手入れに関する比較と傾向を見るため、改訂教科書の使用年度内に発行された開隆堂出版社・小学5・6年家庭の教科書を対象とした。なお、1989年のみ学習指導要領を参考とした。
3. 家庭と取りまく状況の変化を見る
- 学習指導要領の改訂年度を中心に、家庭を取りまく社会の動きを見ることにより、家庭のあり方、家事の考え方の変化を検討する。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 意識調査から見る洗濯に対する考え方
- 洗濯は本来自分の目で汚れを確認し、諸条件 (汚れの種類、汚れの付着量、繊維の種類) によって洗剤の種類、洗剤濃度、洗浴温度、浴比、機械力、洗濯時間を設定し洗濯を行う。また、洗浄の過程において汚れの除去状態を確認しながら、できるだけ元の状態にもどしていくことと考える。この点から考えると、使用している洗濯機の機種の結果 (図1) では、労力と時間の省力化を図ることが主眼と

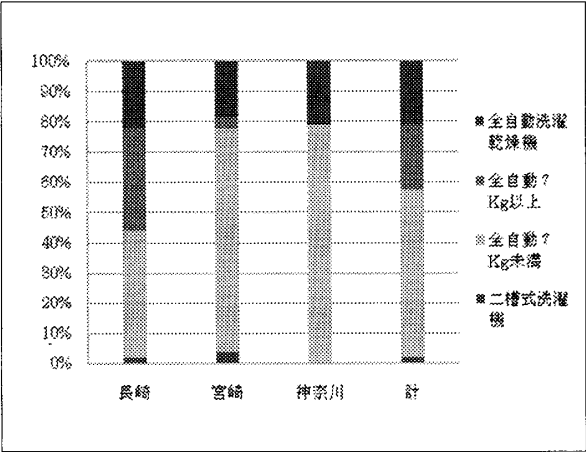


図1 家庭で使用している洗濯機の機種

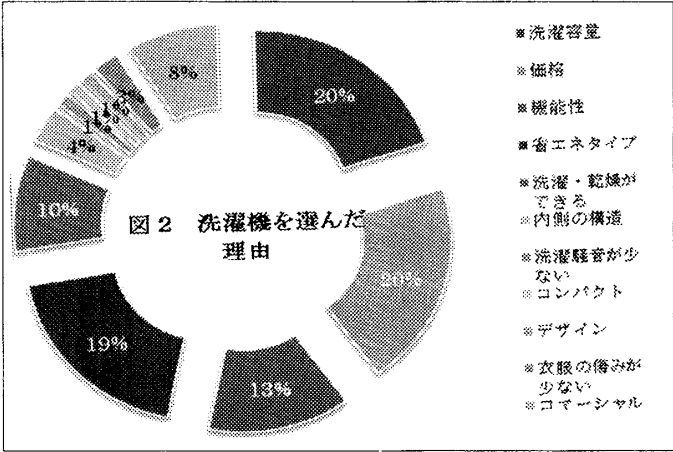


図2 洗濯機を選んだ理由

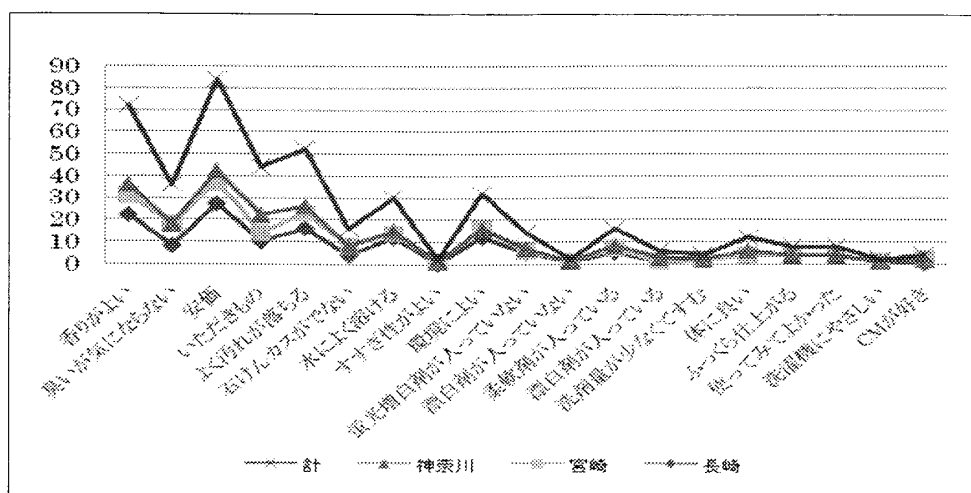


図3 洗剤を選んだ理由

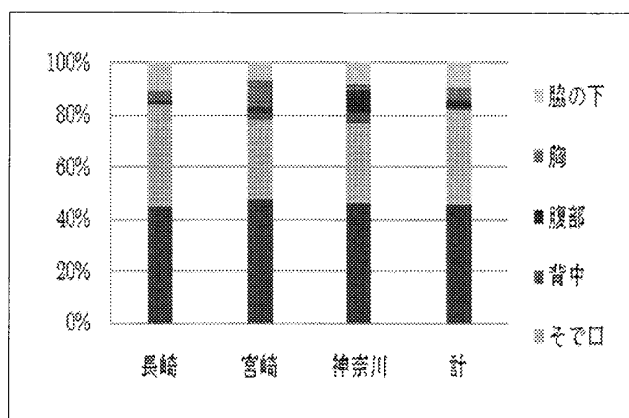


図4 落ちにくい部位 (上着)

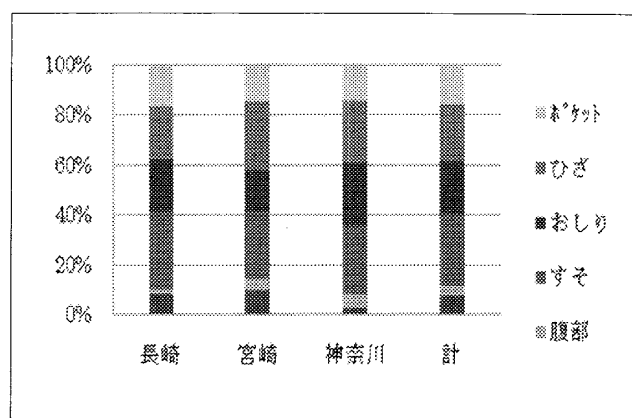


図5 落ちにくい部位 (ズボン)

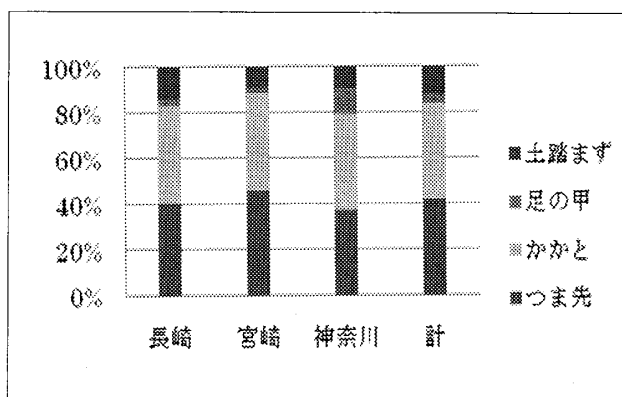


図6 落ちにくい部位 (靴下)

なっており、被洗物の汚れの程度に応じ、洗濯やすすぎができ自分の目で確認しやすい二槽式洗濯機の利用者はほとんどいないと考えられる。また、洗濯機の容量が7kg未満の利用者が6割を占め、核家族のみならずその家族の世帯人数が少ないことを意味していると考えられる。これは世帯人数の減少(図17)、出生率の減少(図18)の動静と一致する。機種を選んだ理由(図2)として、衣服の汚れを落とすという洗浄性を求めた人は皆無であり、むしろ一度に洗濯を済ませ労力やエネルギーを最小限におさえたいとの気持ちが読み

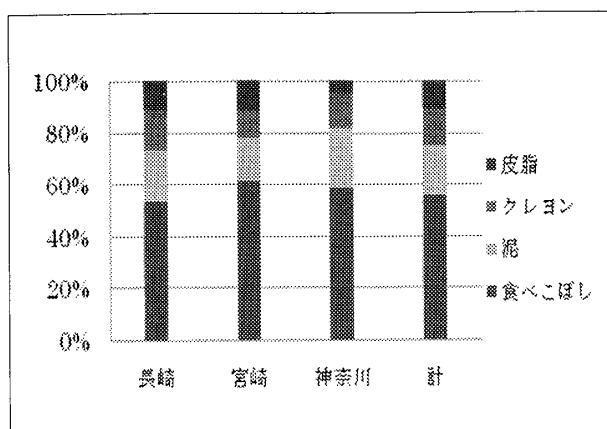


図7 子どもが衣服につける汚れの種類

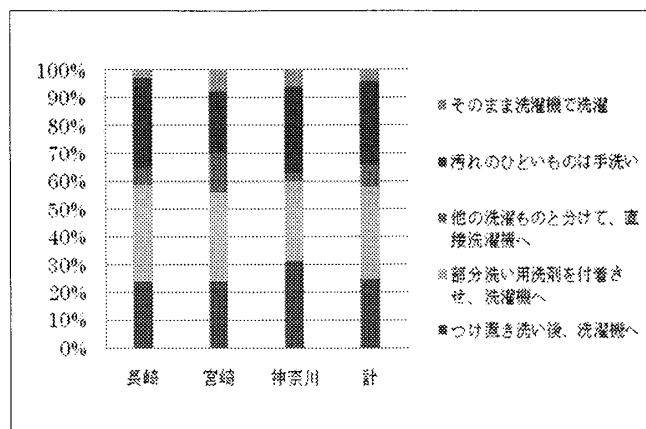


図8 頑固な汚れの洗濯方法

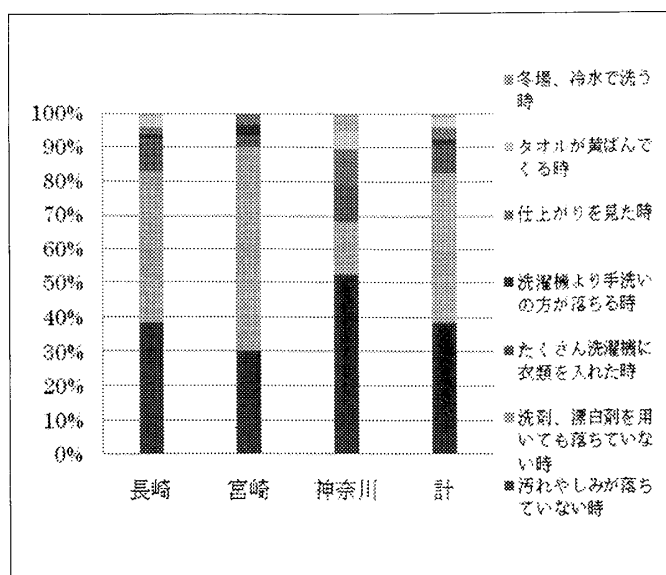


図9 汚れ落ちが悪いと感じる時はどのような時ですか

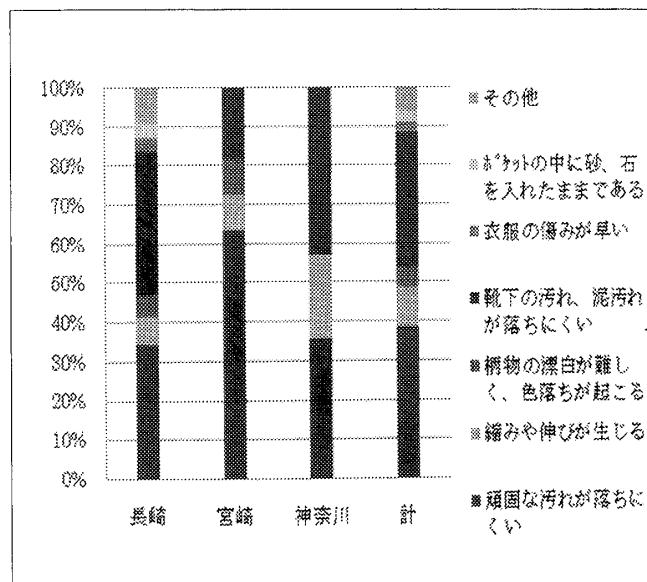


図10 子どもの衣服の洗濯で困っていること

取れる。そのため機能性（洗濯，乾燥ができるも含め）が重視されていることが伺える。同様によく利用している洗剤の選択理由（図3）を見ると，洗剤に求められる基本的な諸要因を目的に選んだ人は26%にすぎず，安価（いただきものですませるを含む），臭いがきにならないものという理由を選択した割合が53%という結果から見ても，汚れ落ちが悪い部位（図4・5・6）があることが気になり

つつも，洗浄性はあまり評価されていないのが現状である。

子どもが衣服によくつける汚れの種類（図7）として，食べこぼし，泥，クレヨンなどの汚れが7割以上を占めており，その頑固な汚れの洗濯方法（図8）としては，汚れを落とすために何らかの処置は行っていることがわかる。しかし，ほとんどが洗濯機による洗浄となっており，手洗いで落とす人の割合はわず

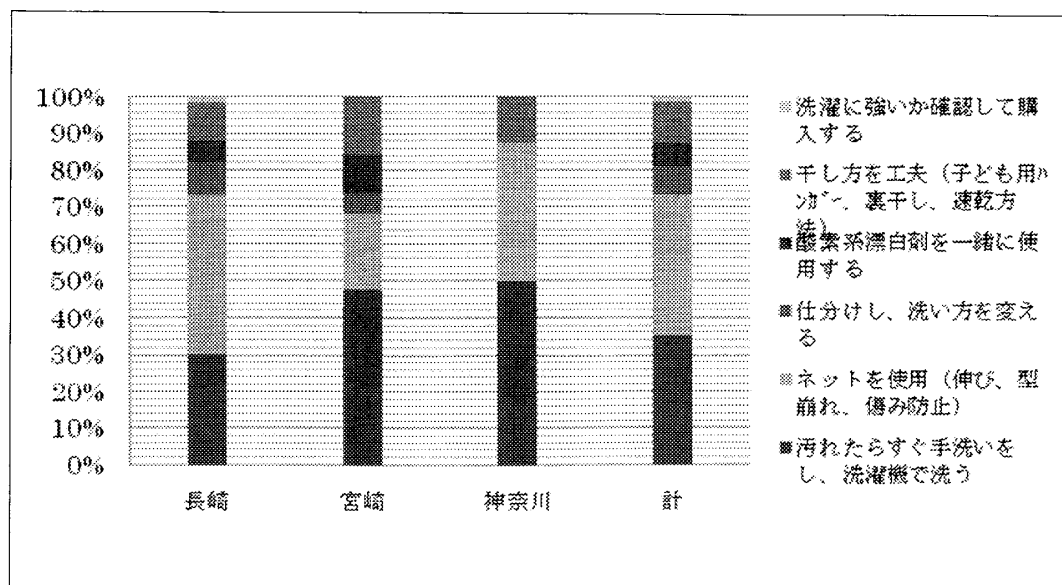


図11 子どもの衣服の洗濯で工夫していること

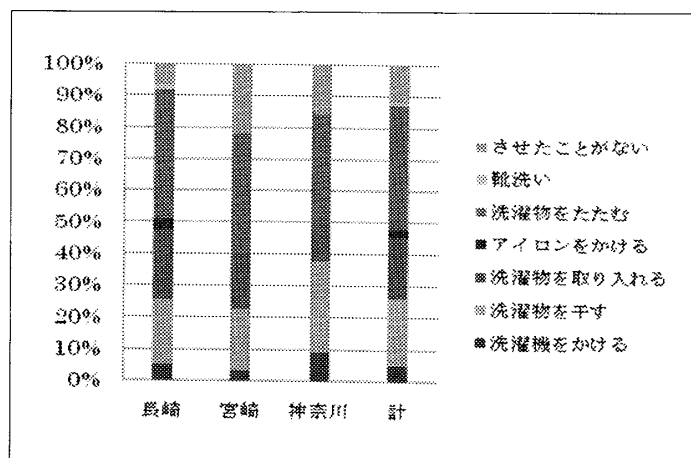


図12 子どもにさせたことのある洗濯内容

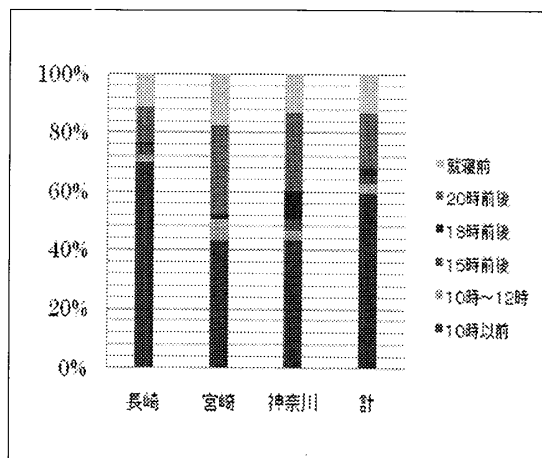


図13 洗濯を行う時間帯

か5%であった。また、汚れ落ちが悪いと感じる時はどのような時か（図9）、洗濯で困っていることはどのようなことか（図10）の問いに対して、ひどい汚れやシミが落ちていない時や頑固な汚れが落ちないのが困るとあげている割合が8割以上を占めていることが判った。なかには洗濯機で落ちなかった汚れが手洗いで落ちた時、汚れ落ちが悪いと感じると答えた人もいた。つまり、多くの母親は洗濯

を洗濯機中心に捉えており、手洗いより洗濯機の方がよく落ちるという概念があることを物語っている。しかし、子どもの衣服の洗濯で工夫していること（図11）の結果から、汚れたらすぐ手洗いし洗濯機で洗うが4割程度であり、応急処置として手洗い方法を選択していることが伺えた。手洗いによる選択を積極的に生活に取り入れることで、洗濯に対する考え方も変わってくるのではないかと思います。

れる。

家庭の中での子どもたちの役割のさせ方や親の関わり方によって、子ども自身に家族の一員であることの意識と責任感が芽生え、また家庭の仕事への参加を促す力にもなる。そこで子どもたちにさせたことのある洗濯内容(図12)をたずねた結果、何らかの形で子どもに関わりをもたせていることが判った。洗濯機に洗濯物を入れるという役割を与えたり、干す・取り入れるなどでは母親の補助的役割をしながら参加している。また、洗濯物をたたむ手伝いをしている子どもが41%おり、最も安心して任せられる仕事であることが伺える。同時に洗濯を行う時間帯(図13)を見ると、母親と一緒に洗濯ができるような時間に洗濯がなされていないのが現状でもある。そのため母親が側についていなくても子どもが責任をもって果たすことができるものとして洗濯物を取り入れる、たたむという仕事の割合が高くなっているのではないだろうか。これは小・中学生への調査¹⁾においても同様の傾向があり、小中学生の衣服の手入れに関する現状を見ると、小学生の7割が洗濯物を取り込んでたたむ経験をもつが洗濯物を干した経験があるのは3割にすぎない、とある。また、割合としては大変少ないが、自分の靴は自分で洗うという方法で家の仕事に参加させている例もあった。

小学校の家庭科の中で指導してほしい内容(図14)を見ると、基本的な洗濯方法をしっかり学ぶ機会を与えて欲しいとの要望が5割を占める。基本的な手洗いの仕方、しぼり方、干し方、たたみ方、また被洗物の分類の仕方が含まれる。家庭の中では実施するチャンスが少なくなった手洗い方法であるが、その手洗いの大切さや手洗いの必要性は認識してい

ると考えられる。それは、洗濯で困っていることの一つである頑固な汚れが落ちにくいがあげられていることと重ね合わせて考えると容易に理解できる。次に汚れの種類による処理方法や洗剤についてなどを学習する必要性があげられている。これも基本的なことを知っておくことにより、より効果的にまた無駄の少ない洗濯を行うことができるため要望も高いと考える。なかには、体験中心で授業が進められることを希望している。以上の結果から総合的に考えられることは、仕事に従事している(図15)母親が5割程あり、特に仕事を持つ母親にとって子どもとともに家事に取り組む時間がないこと、さらにかつては祖父母とともに家事に取り組む機会があったが、その機会も減っていること、また子どもの人数も減少し(図16)、一人から二人が8割を占め、子どもどうして学び合うチャンスもなくなった。そのため家庭における生活体験が不足している今日、学校教育の場でその力をつけることが求められている。家庭における経験の乏しさは、生活技能の貧しさを招き、工夫する力や適応能力、精神性の発達を阻害する要因ともなりうる。

2. 学習指導要領の変遷に伴う衣服の手入れに関する指導内容の変化

1955年の改訂から2003年の一部改正²⁾までの内容を比較した結果は、主に表1のようにまとめられる。

*1958年、6年生教科書については、体験学習を通して反省・工夫を行い、自ら学ぶことができるように構成されている。




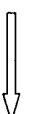


小学校教育の実態として洗濯の必要性を認識させること、それに伴う洗濯の手順と方法を習得させるために実習形式で述べられており基本的に小学校では手洗い方法が指導の中心

となっている。しかしながら1989年以降、電気洗濯機の基本的な取り扱い方について、また1998年以降の教科書においては手洗いと洗濯機洗いの洗浄性の比較も記載されるようになった。手洗い方法では、1977年以降取扱い絵表示・組成表示についての学びを通して、

繊維と洗剤、繊維と洗い方・しぼり方、さらに汚れの程度（汚れの種類）により部分洗いの必要性が記載されている。洗濯工程における基本的操作、方法について網羅されていることがわかった。

3. 家庭と取りまく状況の変化

表1 衣服の手入れに関する指導内容の変化

学習の重点項目	5年生—衣服を長持ちさせ、身なりを整えるための基本は下着を清潔に保つこと。 清潔を保つための洗濯の基本を学ぶ。 6年生—上着の洗濯を通して、布地にあった洗濯の仕方と洗剤の選び方を学ぶ	
洗濯の手順	共通内容	変化
準備 	洗濯用具について 洗剤の種類について 身じたくについて	1958年 用具に洗濯機が記載 1958年 あく・洗濯ソーダ・アンモニア水が洗剤より末梢 1977年 洗濯板が用具より末梢 環境問題・皮膚障害と洗剤の関係が記載
	点検—ポケットの中・汚れの状態・布地の色・色落ちのしやすさを調べる	1968年 繊維の見分け方記載 1977年 取扱い絵表示の見方記載 2003年 組成表示の見方記載
仕分け 	下洗い—水で落ちる汚れを洗い落とす	
下洗い 	浴比・浴温・洗剤濃度について 洗い方—繊維に応じた洗い方を選ぶ	1968年 ポリエステルは再汚染が生じやすいことを記載 1989年 洗濯機の基本的な取り扱い方について記載 1998年 手洗いと洗濯機洗いの洗浄性の比較記載
本洗 	すすぎの回数について しぼり方—繊維に適したしぼり方を選ぶ	1977年 すすぎの仕方と使用水量との関係を記載 1989年 脱水の仕方記載
すすぎ 	干し方・後片付け 乾いたら早めに取り込む しわをのばし、形を整えてたたむ	1998年 取扱い絵表示に従って干すことを記載
乾燥 		
取り入れ		

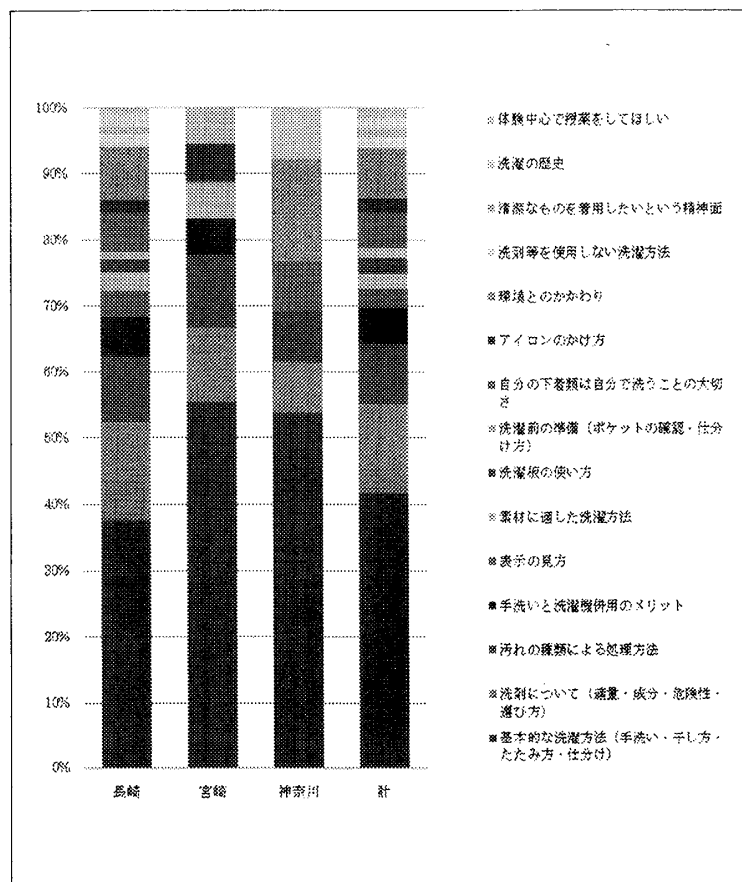


図14 小学校の家庭科の中で指導してほしい内容

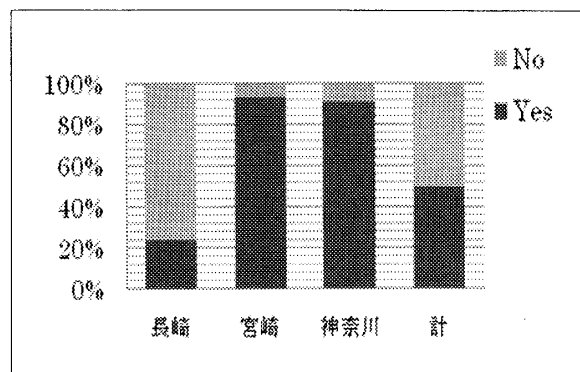


図15 仕事をしていますか

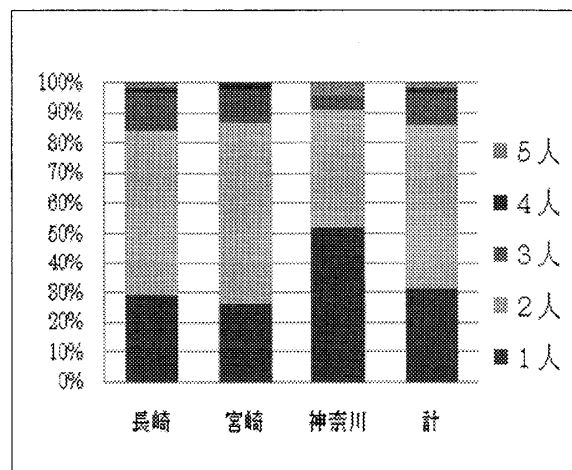


図16 子どもは何人ですか

①家事労働の変化

1955年を中心に「三種の神器」と呼ばれた洗濯機の登場により、「洗濯は洗多苦」³⁾と言われるほど家事の一切を担っていた女性にとって、重労働の何ものでもなかった洗濯に対する考え方を大きく変えた。電気洗濯機の普及率⁴⁾は、1956年20%、1960年40%であったものが、1968年98%、1977年には100%と急速に伸びを示している。手洗いから洗濯機へと変わり、洗濯にかかる時間、労力の削減された。また、洗濯機と共に電気釜・電気掃除機・冷蔵庫等の普及により家事労働の質を変えると

ともに、主婦の余暇や睡眠時間が増加した。

②家族の変化

家族形態の変化として拡大家族から核家族へと進展してきたという認識がある。しかし、世帯類型別構成割合の推移⁵⁾によると核家族世帯は1920年54.0%であったものが現代は58.4%となっており、わずか4.4%の増大となっている。むしろ増加しているのは単独世帯である。つまり核家族は以前から主流であったと考えられる。それでは何が変わったかという、平均世帯人員の年次推移⁶⁾ (図17)、出生率の年次推移⁷⁾ (図18) に示す通り、少子化

現象とともに祖父母とその孫が同居する世帯が減少していき世帯人数が減ったという点である。昔から核家族は主流とはいうものの、その家族を受け入れる環境は変わってきた。古来の核家族は地域とのつながりが密接であり、近隣に血縁を同じくする者が存在しお互いに助け合う生活であったが、現代は孤立した核家族であり、孤立した子育てとならざるをえない。

③働く女性と子どもの家事参加に対する考え方

図19に25～34歳女性の労働率の推移⁸⁾を示すが、働く女性は年々増加している。家事労働時間は減少しているものの、どのような目的かは別として仕事に費やす時間が多い。そのような現状の中で、世の母親の子どもの教育に対する考え方には次のような傾向があることがわかった。

お子さんはどの程度手伝っていますか⁹⁾ (図20)の問いに、やっていると回答した人が4割である。ほとんど手伝っていない6割の子どもたちは一体なぜ家事参加がすすまないのか、その理由として¹⁰⁾ (図21) 親が忙しい、親に教える根気がないなど家事参加が進まない理由の7割が親にあるという結果である。一方、子どもの教育は学校に頼らず、家庭や地域がもっと役割を果たすべきか¹⁰⁾ (図22) の問いに対しては、7割が家庭が役割を果たすべきという認識があることがわかった。

IV. ま と め

家庭生活における衣服の手入れに対する考え方として、衣服を清潔にすることはとても大切であり、子どもにも清潔にする、清潔なものを着用したいという精神性と、また自分のものは(特に直接肌に着けるようなもの)自

分で洗濯できる自立心を衣服の手入れを通して身につけてほしいという思いがある。そのため、子どもが基本的な手洗いを学び、そこから環境問題、省エネルギー問題へと視野を広げ更に自分の生活の確立、家庭における自分の役割を意識できるような学びの機会を学校に求めており、これについては地域差や母親の就労の有無に関わらず同様の考え方であることが確認できた。

一方、学校教育ではどのように対応しているのだろうか。教科書の内容を検討した結果、衣服の手入れについては十分網羅されていた。問題として考えられるのは教育者側の姿勢のようである。家庭科の授業内容に関するアンケート調査¹¹⁾によると、一年間の家庭科の総授業時数(実数)は、小学5・6年生ともに学習指導要領で定めている授業時数とほぼ一致し時間は確保されている。衣生活の領域は「衣服の働き」「日常着の着方」「日常着の手入れの必要性」があるが、この領域に対する時間数は、小学5年生で7割、6年生で6割履修されていないのが実態である。特に「日常着の手入れの必要性」については、小学5年で8割、6年で6割履修していないとある。また、履修していてもほとんどが講義形式であり、しかも教材の提示は板書と教科書のみが6～9割を占めている。実習を伴った授業は少数であると報告されており、これが家庭科教育の現状である。

今後の課題

学校教育だけにまかせず、家庭が役割を担うべきだと考える人が7割いる¹⁰⁾との調査結果であったが、7割の人がいるこの時に家庭と学校教育のあり方を再構築すべきであると思う。①1958年改訂教科書のように体験学習を通して子ども自らが学び得るような授業を展

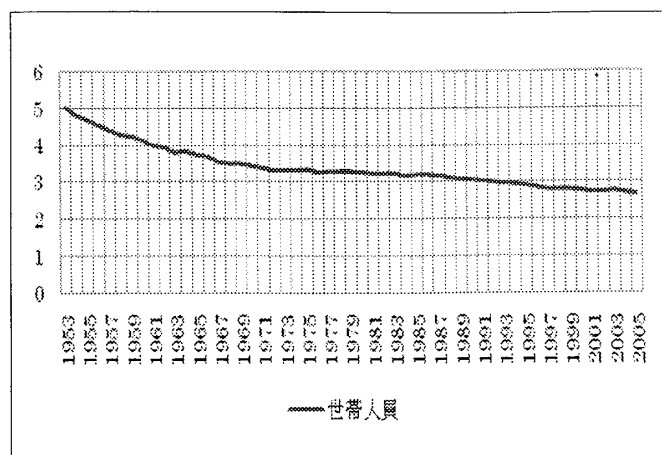


図17 平均世帯人員の年次推移

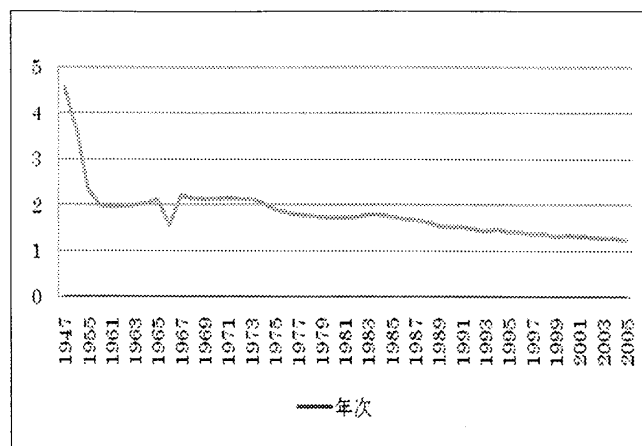


図18 出生率の年次推移

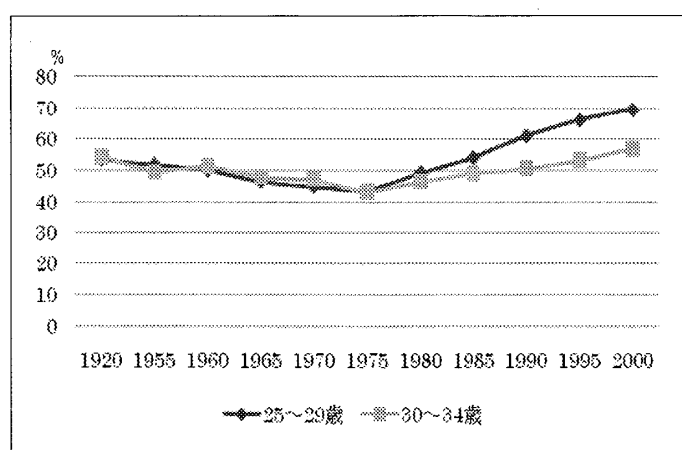


図19 25～34歳女性の労働力率の推移

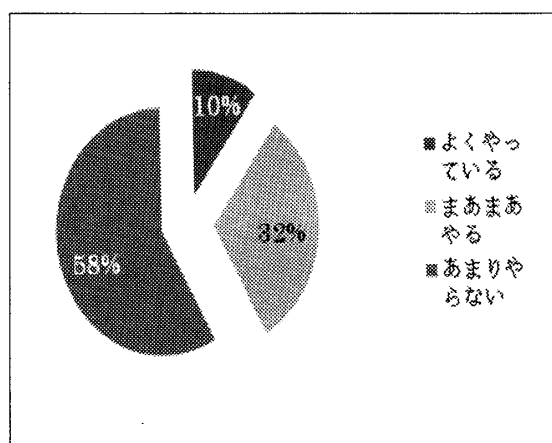


図20 お子さんはどの程度手伝っていますか

開すること。②家庭に積極的な協力依頼を行う。③学校と家庭がともに子どもを育てるというコンセンサスをとることが優先課題と考える。

①授業展開例 テーマ“洗う”

目標

1. 洗濯の必要性を児童自らが感じ、清潔にすることの意味を理解し清潔でありたいと思う心を育成する。
2. 状態（状況）に応じた洗濯方法を選択し、洗濯ができる。
3. 家族の一員として役割を担う態度を育成

する。

授業の進め方（1時間分）

毎日の洗濯と近似した学習ができるように、6校時に実習を行うよう配慮する。更に、汚れが多く付着していたほうが学習効果があると思われるので、当日は校外（運動場）での学習を多く取り入れるよう配慮する。

導入

- ・洗濯の経験の有無や行ったことのある洗濯方法など児童の体験を引出し、洗濯の仕方にはいろいろな方法があることを知らせる。
- ・自分が一日はいていた靴下を脱がせ、色や

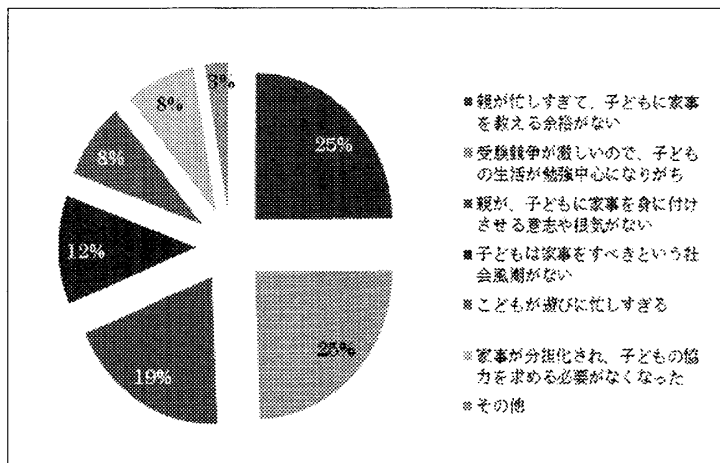


図21 一般的に子どもの家事参加がすすまない理由はどこにあると思いますか

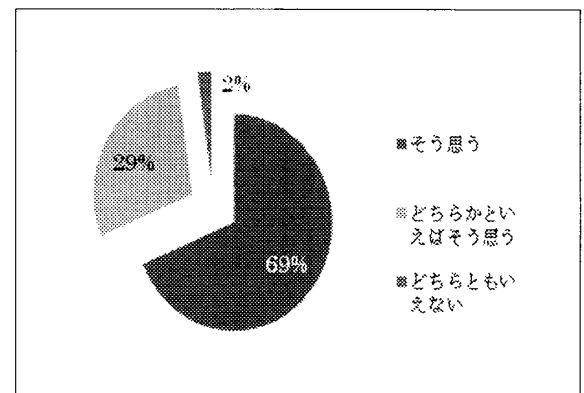


図22 子どもの教育は学校に頼らず、家庭や地域がもっと役割をはたすべきだ

臭いを観察し体感させ、靴下に付着している汚れの種類、臭いの原因を考えさせる。このことから汚れ、臭いは外からつくものと体からでるものがあることを理解させる。

- 清潔を保つために私たちはシャワーを使用したり毎日顔を洗うように、衣服も洗濯する必要があることに気付かせる。

展開 グループを作り、靴下を洗う体験をする

洗い方 — 洗濯機洗い・手洗い
 手洗い方法 — もみ洗い・おし洗い・ブラシ洗い（洗濯板使用の場合と使用しない場合の2方法）
 洗剤 — 2種類（石けん・合成洗剤）

→ { 洗濯機洗いと手洗いの比較
 洗剤の種類による洗浄性能の比較
 洗い方による洗浄力の比較
 以上の比較ができるよう工夫する

すすぎ — 水を節約したすすぎ法を考えさせながらすすぎをさせる。又、洗濯機と手洗いの使用水量の比較を行う。

しぼり方 — ねじりしぼりの方法を習得させる。

干す — 干す場所を考えて干させる。何故その場所に干したのか、それで良かったのかを考えさせる。衣服の種類、色の違いにより干す場所を考慮する必要性を理解させる。

片付け — 使用した用具を協力して整理させる。

まとめ

洗濯した靴下が乾燥していないため最終的なまとめは次時とするが、本日の実習で汚れ落ちが最も良いと思う順に番号を記入させ予想を立てさせる。

本日の実習で発見したこと、考えた事を発表させる。

児童の発見や意見を次時の授業に発展できるようまとめ、次時の予告をする。

準備する資料

汚れの種類・臭いの原因をプレゼンテーションする。

目に見えない汚れの付着量がわかるデータ及び絵図をプレゼンテーションする。

洗浄力評価のためのワークシート

準備する用具

洗濯機・洗いおけ・洗剤（2種類）・洗濯板・ブラシ・小物干し器・パソコン・プロジェク

ター

②家庭に積極的な協力依頼を行う

小学校学習指導要領の一項¹²⁾に「家庭との連携を図り、児童が身につけた知識と技能などを日常生活に活用するよう配慮するものとする」とある。家庭科教育の目標である日常の家庭生活に関心を持ち、生活の場で実践できるようにするためには家庭の協力なしには実現できない。学校で学んだことを親とともに実践することで学習したことをフィードバックすることができ、それによって問題点を見出し、更に新たな発見やよりよい工夫が加えられた技術を身に付けることができる。家庭で新たな発見や喜びを親・兄弟・姉妹と共有することによって、豊かな生活体験へと導かれていくことを容易にしてくれる。そのためにも家庭の協力は欠かせないものである。教室から協力の必要性や大切さを発信し、学校で学んだことが継続できるよう要請することが重要である。

③学校と家庭のコンセンサスをとる

家庭に協力を依頼する場合、各家庭のおかれている状況や環境、子どものしつけや教育に対する考え方が異なるため、受け手である家庭側に受け取り方の温度差が生じてくる。そのためコンセンサスを得ることは難しい。しかし、初等教育時期の学びが生活の基盤となることを理解してもらうために、情報を提供し各家庭と相互に連絡を取り合い、話し合うことによって共通のコンセンサスを取ることが大切である。

V. 謝 意

最後に、本研究の調査にご協力いただきました調査対象園の園長先生をはじめ諸先生、保護者の皆さまに謝意を表します。

参考文献

- 1) 日本家庭科教育学会編；家庭科で育つ子どもたちの力，明治図書，23～24（2005）
- 2) 文部省検定教科書；小学家庭 5 年・6 年，開隆堂（1960）
文部省検定教科書；小学家庭 5 年・6 年，開隆堂（1961）
文部省検定教科書；小学家庭科 5 年・6 年，開隆堂（1974）
文部省検定教科書；小学家庭科 5 年・6 年，開隆堂（1986）
文部科学省；小学校学習指導要領解説・家庭編（1990）
文部科学省検定教科書；小学家庭科 5 年・6 年，開隆堂（2003）
文部科学省検定教科書；小学家庭科 5 年・6 年，開隆堂（2006）
- 3) 毎日新聞；朝刊（平成12年 6 月 8 日）
- 4) 内閣府；「消費者動向調査」
- 5) 総務省；「国勢調査」
- 6) 厚生労働省大臣官房統計；「厚生行政基礎調査」1985年以前
厚生労働省大臣官房統計；「国民生活基礎調査」1986年以降
- 7) 厚生労働省大臣官房統計；「人口動態統計」
- 8) 総務省統計局；「国勢調査」
- 9) 「厚生白書」；少子化を考える，ぎょうせい，東京，221（2000）
- 10) 「厚生白書」；少子化を考える，ぎょうせい，東京，95（2000）
- 11) 後藤景子，菊池志乃；京都教育大紀要，109（2006）
- 12) 文部科学省；小学校学習指導要領解説・家庭編，69（2005）

Consideration to which clothes life field (Home economics education)
in elementary school works and attaches
— Maintenance of clothes —

Akemi Yamaguchi

Department of Nutrition, Faculty of Nursing and Nutrition,
Kagoshima Immaculate Heart University

Key Words : Maintenance of clothes, Washing, Consideration investigation,
Course of study, Cooperation at home with school

Abstract

The current state of “Washed” came into view when the consideration investigation concerning the maintenance of clothes was executed.

When the kind and the detergent of the washing machine are selected, the labor saving of the labor is a condition of the selection though washing the purpose of washing.

Moreover, the guidance of how of basic washing is requested to the school because there is no time elbowroom washed with the child.

On the other hand, it is a positively untried current state in the class of the maintenance of clothes at the school.

This research proposed the practice of the following three problems.

- ① The class which the child can learn is developed through the experience study.
 - ② Positive cooperation is requested to the home.
 - ③ The consensus of the upbringing of the child at home with the school is obtained.
-